

一般社団法人 日本医療催眠学会

## 第8回 学術大会

# 現代医療における催眠療法の果たす役割

～明日から使えるテクニックやコツ～



日 時 2021年10月31日(日)

9:00～17:30

オンライン (ZOOM) 開催

主 催 一般社団法人 日本医療催眠学会

大会長 白石俊隆

Japan Medical Hypnosis Association.

 日本医療催眠学会

## 第8回日本医療催眠学会ご挨拶

萩原 優（日本医療催眠学会理事長、イーハトーヴクリニック）

10月31日（日）、第八回の日本医療催眠学会をオンラインで開催するはこびとなりました。

昨年はコロナ禍で残念ながら大会を開催することができませんでした。

今年は会長に白石俊隆理事にお願いしております。内容も白石会長の催眠療法に対する思いが反映されており、そこで、今までの大会の流れとは少し趣が異なり、興味深いプログラムが組まれております。

催眠療法のセラピストや経験のある方は無論、これから催眠療法を学ぼうと思われる方まで、どなたでもご自由に参加して頂ける学会です。

催眠療法は手技など多様化しておりますが、クライアントさんとの信頼関係（ラポール）とクライアントのレジリエンスを信頼するセラピーが土台になっております。

ズームによるオンラインの大会は初めてですが、現在、学会関係者が鋭意準備を進めております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

## 第8回日本医療催眠学会の開催にあたって

白石俊隆（日本医療催眠学会理事）

2021年学術大会は、初めての完全オンラインで開催されます。

また、これも初めてとなる大会紹介ビデオを作成いたしました。

私の思いが伝われば幸いです。会員の皆様のみならず、催眠にご興味のある一般の方々どなたでも参加可能ですので、是非、ご参加をお願い申し上げます。

## 催眠療法で、うまく入れない場合の対処法

紫紋かつ恵（シモンヒプノセラピー代表）

### 【概要】

催眠療法セッションでは、時折予想外のことが起きます。回数を重ねると対応力もついてきますが、セラピストとして始めた当初は、テキストや講座の様にはいかない事もあり、戸惑うことと思います。私も未だに試行錯誤ですが、おかげさまで経験数だけが多いので、いろんな事例に対処できるようになりました。私なりの方法がお役に立てば幸いと思い、発表させていただきます。

### 【本文】

クライアントさんが催眠療法の導入時点で、「うまく入れていない」と訴えられるとセラピストは戸惑いますが、いくつか傾向があるようです。理解して丁寧に進めることで、セラピーの成功率は上がります。

セラピストの要因としては、誘導が未熟である、ラポールが築けていない、事前説明が不十分、ペースを合わせていない、等。

クライアントさんの要因としては、催眠の誤解が解けていない、恐れがある、無理矢理連れてこられた、副人格が邪魔している、理性が強すぎる、そもそもイメージ力が低すぎる等。

皆様それぞれの対処法をお持ちかと思いますが。私の経験の中での対処法をお伝えすることで、安心して深い癒しのセラピーができるようになれば幸いです。

## 未来から得られた癌の治癒

川口春恵（スプリングライト主催、大槻ホリスティック認定セラピスト）

### 【概要】

乳癌から他臓器へ転移して、余命半年～長くても1年半と宣告されて来訪されたクライアント様。

以前に他のところでヒプノを受けたことがあるが、うまくできなかった経験あり。

将来について大きな不安があるので、「未来世」を見てみたいと強く希望された。

その時セラピストとして寄り添っていた私にとっても印象深かった内容でしたので、発表させていただきます。

### 【本文】

- 通常の「未来世セッションの流れ」。
- 今回、クライアント本人からの急な要望
- ご要望通りに進めてみたことで起きたこと。
- クライアント様のその後の様子、癌の治癒。
- このセラピーを通してセラピストとして学んだこと。

## 感染症時代における、zoomを使ったオンライン催眠の流れとコツ

紫紋かつ恵（シモンヒプノセラピー代表）

### 【概要】

新型コロナウイルスの流行により、急速にオンライン化が進んでいます。催眠療法においてもズームを使って個人セッションや、グループワークなども十分効果を上げることができますし、メリットもあります。その流れとコツをお伝えします。

### 【本文】

在宅勤務、オンライン講義などから急激に広まった zoom。昨年の爆発的に広まった際に悪用する人が荒らすなど、指摘されてきたシステムの脆弱性はアップデートや仕様変更などを度々繰り返すことで、クリアされ、比較的安心して使うことができるようになりました。私自身も個人セッションやグループワーク、養成スクールに zoom を取り入れることにより、活動の幅が広がったと感じます。オンラインは対面とは違い工夫が必要ですが、メリットも大変多く、双方安心安全にセラピーを進められます。知ってすぐに使うことができるオンラインセッションの流れや、コツをお伝えします。

## ソマティックヒーリングによるガンからの卒業

野島ますみ（IHC イーハトーヴヒプノセラピーカレッジ）

### 【概要】

ヒプノセラピーの学びを進める中で体細胞療法を体験しました。ガンとお別れするために、ずっとガンと向き合ってきましたが、答えはそこではなかったことを知り、本当にガンから卒業したのだと実感した体験を発表致します。

### 【本文】

ソマティックヒーリング（体細胞療法）をまなびました。

講座では、受講生同士でセッションの練習をします。セッションは大抵の場合は自分の体の不調な部分の癒しですが、私は私の人生を変えてくれたガン細胞への感謝を伝えることを希望しました。

ガンを体験したことがない方には、私のガンへの思いをなかなか伝えることができませんでした。私はガンを悪いものとは思っていません。私にとってガンは人生を見直すきっかけを与えてくれた感謝の対象なのです。このセッションで、そんなガン細胞に感謝を伝えたいと思ったのです。

ガン細胞が残っていると思っているお腹のなかを見してみると、腸の裏側がぽっかりと空いている。腸が仲間を失って寂しさを抱えているのです。手術で自分の仲間を失ったことを寂しがっていたのです。その部分は黒い影を落としていました。

腸の寂しさを感じた途端に涙が溢れてきました。涙が溢れ出てきたら、空洞の部分に宇宙から愛が注がれて、その部分が愛でいっぱいになりました。そうしたら、元気がなくて茶褐色に見えた腸も綺麗な光で輝き始めました。

私はやっと気がつきました。失った臓器は無償の愛で腫瘍を受け取ってくれたのだ。私を助けるために。わたしは、無償の愛の重さに泣きました。感謝すべきは、ガン細胞ではなく、私のその後の人生のために全てを受け入れ、仲間と離れ体から去っていった臓器だったのだ。

感謝の気持ちで涙が止まりませんでした。

これで、本当に私はガンから卒業したのだと思いました。

## 顔面麻痺の方の催眠療法。身体の声聴いてその場で完治した事例

田村恭子（コトナハム主催、大槻ホリスティック認定セラピスト）

### 【概要】

話し方教室の経営者、講師の50代女性。人前で話す事が職業の為、常日頃から表情筋など鍛えている。顔の左側半分がずれて下がって歪んでいたが、医師からその状態では普通は話すこともできないのに、喋れることに驚かれたとのこと。3ヶ月の休養が必要と言われたが休むわけにはいかないで原因を知りたいとお見えになり、身体の声聴く催眠療法をした所、見事に完治した事例です。

### 【本文】

顔面麻痺になるまでにサインみたいなものは感じましたか？の質問からカウンセリングを始める。最初は数ヶ月前に中耳炎になり、友達に助けられ医者に行った。つぎは風邪をひき高熱がでて、またしても良き仲間の縁で助けられ、素晴らしい鍼の先生とご縁ができたこと、ずっと体調不良を乗り越えてきた内容でした。彼女の話から彼女の持つビリーフが推測されたので、催眠療法でご自身の身体の声聴くというセッションにはいりましたが、1つだけ問いを投げかけました。そうした所、身体が物凄く怒っていると言い出して、泣きながら謝っていました。30分ほど泣き続け謝り続けるのを見守りました。セッションが終わり戻ってきたら見事に完治していました。ご自身の身体の声聴くというご自身との対話、意識を外側ではなく内側にむけ自らの気づきの大切さを伝えたいです。

## パニック発作に対するヒプノセラピーとハートフルネスカウンセリングというアプローチ

原 ゆう子（ソウルコミュニケーション主催、大槻ホリスティック認定セラピスト）

大槻麻衣子（日本医療催眠学会理事、大槻ホリスティック主催）

### 【概要】

37歳女性がパニック障害と診断されるも薬への恐怖心から投薬治療を拒み、約3ヶ月間全4回のセッションにて日常生活を取り戻したセッションの事例。

心の病の発端となった原因を探るヒプノセラピーと、瞑想・呼吸法を用いたハートフルネスカウンセリングを組み合わせた、シンプルながらパワフルなメソッドをご紹介します。

### 【本文】

クライアントは来談する2年前にパニック障害と診断される。しかし、投薬治療への恐怖心があり抗不安剤を服用することがどうしても出来なかった。症状は悪くなる一方で、ネイリストという仕事も発作が起きることを考えるとお客様に迷惑をかけるのではと、開店休業状態となる。加えてコロナ禍で自分がコロナで死ぬのではないかとという恐怖心も芽生え、日常が立ちゆかなくなってしまう。

知人の紹介でヒプノセラピーを知り、1回目のセッションで大きな感情の解放が起こる。

ヒプノセラピーだけでなく、瞑想・呼吸法を用いたハートフルネスカウンセリングの実施で、自己受容、他者受容が出来るようになり、自己肯定感が高まる。それにより、段々と自分自身の言葉で心の内を話すことが出来るようになり、本来の明るさを取り戻し、職場復帰も果たした。

セッションの何がクライアントの日常を取り戻すに至ったのかを考察していく。

## 医療における音楽の可能性と、ボニー式音楽イメージ療法（GIM）について

加藤恭子・吉原奈美（Musicure 代表）

### 【概要】

日本医療催眠学会理事長萩原優氏より催眠療法を学んだ第一発表者・加藤は、その後音楽とイメージを用いる GIM と呼ばれる音楽療法に出会い、興味を持った。変性意識状態（もしくは非日常意識状態）を導入して行うこの療法と、催眠療法には共通点があると感じたが、催眠との違いの一つに、筆者はイメージ誘導に音楽を聴取することにあると考えた。かつてユング (1956) は「音楽は患者の深層の元型に触れるのだろう」と述べているが、筆者自身、GIM のセッションにおける音楽聴取時に元型にかかわるイメージが自然と想起された。またトランスパーソナル心理学で言われているような、宇宙の核に触れたような魂が打ち震える感動も体験した。本発表では音楽のイメージにおける影響などを中心に、GIM を紹介する。

### 【本文】

GIM は英語では、Bonny Method of Guided Imagery and Music と言い、日本語ではボニー式音楽イメージ療法と訳される。GIM は、アメリカの音楽療法士であり、コンサートバイオリニストでもあったヘレン・ボニー博士（1921-2010）の、メリーランド精神医学研究所における意識の研究の中から生まれ、実験を重ねて療法として確立された。GIM では、リラックスした状態のクライアントに変性意識状態を導入し、決められた音楽プログラムを聴かせる。音楽プログラムは目的ごとに異なり、セラピストは対話の中から最もふさわしいプログラムを選ぶ。音楽を聴取することにより、意識の深い部分にある「必要な答え」を探っていく。この発表では、日本での GIM の第一人者である第二発表者の吉原と共に GIM を紹介することを通して、イメージにおける音楽の影響について検討したい。

## 催眠状態を解く催眠療法とは

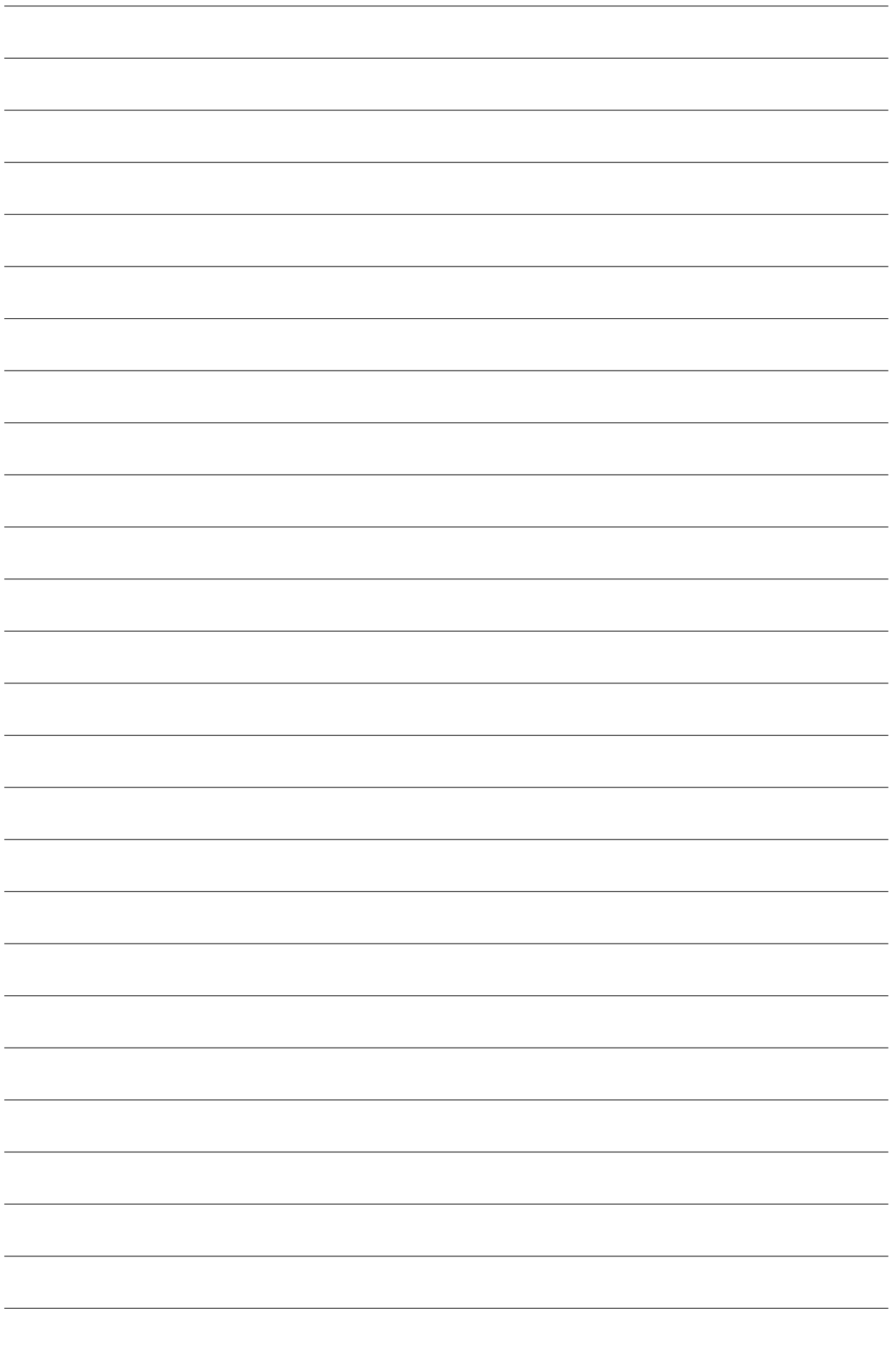
加藤詩子（沖縄心理カウンセリング波詩）

### 【概要】

催眠療法に関われば関わるほど、催眠誘導の過程で一切のジャッジから自由になった時の その人自身が、実は本来のフラットなその人なのではないかという思いを強くする。今回は実際のケースを交えながら、問題を呈している状態が実は催眠にかかっているのであり、その催眠状態を解くことが症状解決となり、催眠療法の果たす役割なのではないかと筆者が考える根拠を説明していく。

### 【本文】

原初的体験としての家族関係から来るトラウマ体験は、家庭という閉鎖された集団の中で 親から愛されるためにサバイブしていく過程でマインドコントロールにも似た一種の催眠状態 に陥り、それによって生き延びて来たという生存本能から来る経験値の元、確固たるものとして その人の生き方の一部となる。しかしその生き方を家庭から出た後も踏襲することで、親との間で繰り返されてきたトラウマの再上演をすることになり、限界を感じて多くはカウンセリングに 訪れる。催眠療法の役割は、この生育環境で強く定着されたマインドコントロールにも似た催眠 状態を解くことにあると筆者は考える。筆者が行っているこの“催眠状態を解く催眠療法”を、幾つかのケースを交えながら紹介、説明していく。



## プログラム

9:00 ~ 9:05 開会宣言 大会長 理事 白石俊隆

9:05 ~ 9:45 大会長講演 理事 白石俊隆「私の経験した催眠症例（約 200 症例）のまとめ」

= 準備時間 5分 =

招待講演 トリシア・カエタノ

9:50 ~ 11:50 "Using Hypnotherapy to Unify Body and Mind Healing"

—催眠療法による心と体の統合ヒーリング—

司会：理事長 萩原 優／通訳：大野百合子

13:25 ~ 13:45

昼休憩

13:30 ~ 13:45 紫紋かつ恵「催眠療法で、うまく入れない場合の対処法」

13:45 ~ 14:05 川口春恵「未来から得られた癌の治癒」

14:05 ~ 14:25 紫紋かつ恵「感染症時代における、zoom を使ったオンライン催眠の流れとコツ」

14:05 ~ 14:25 野島ますみ「ソマティックヒーリングによるガンからの卒業」

= 休憩 10分 =

14:55 ~ 15:15 田村恭子「顔面麻痺の方の催眠療法。身体の声聴いてその場で完治した事例」

15:15 ~ 15:35 原 ゆう子・大槻麻衣子

「パニック発作に対するヒプノセラピーとハートフルネスカウンセリングというアプローチ」

15:35 ~ 15:55 加藤恭子・吉原奈美

「医療における音楽の可能性と、ボニー式音楽イメージ療法（GIM）について」

15:55 ~ 16:15 加藤詩子「催眠状態を解く催眠療法とは」

= 休憩 10分 =

パネルディスカッション

医師パネリスト 非医師パネリスト

1) 萩原優 1) 花咲ともみ

16:25 ~ 17:25 2) 西口裕 2) 加藤詩子

3) 後藤牧子 3) 大槻麻衣子

4) 横地真樹 4) 鈴木ひろえ

5) 福田克彦 5) 藤野敬介

17:25 ~ 17:30 閉会宣言 副理事長 橋元慶男

連絡先 : 日本医療催眠学会 事務局

所在地 : 〒 225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘 2-18-9 ニュライバル 202

イーハトーヴクリニック内

T E L : 070-4388-7102 F A X : 045-482-7620

学会HP : <http://japan-mha.com>